



まつもと じゅん

松本純

中区・磯子区・金沢区
まちかど
政治瓦版



自民党公認
神奈川1区

松本純ホームページ 毎日更新中! [http:// www.jun.or.jp](http://www.jun.or.jp) ▶ 検索キーワード「松本純」

「ばらまき」より、ニッポンの明日への「投資」を



8月30日に投票が行われる今回の総選挙は、日本を守り、国民の皆さまの暮らしに責任をもてる政策とは何か—を選ぶ「政策選択選挙」です。日本経済は麻生内閣の4次にわたる緊急対策で経済危機を脱しつつありますが、課題はそれを安定した成長軌道に乗せ、その先に目指すべき日本の姿をしっかりと示すことではないでしょうか。

キーワードは「太陽光・エコカー・グリーン家電」です。これらは待ったなしの地球温暖化対策の切り札ですが、日本の経済成長を支える最大の武器でもあります。日本はその技術で世界をリードしています。この得意分野の産業に行政と民間が足並みをそろえて集中的に投資することが、「新たな成長戦略」の柱となるのです。

松本純

www.jun.or.jp



「太陽光発電を2020年までに今の20倍にする」「2020年には新車の2台に1台はハイブリッド車や電気自動車にする」。グリーン（省エネ）家電への買い替えなどとあわせて、「低炭素革命」と呼ばれますが、これらの取り組みにより、その時点で新たに約50兆円の市場と140万人の雇用が創出できると試算されています。

成長戦略のもうひとつの柱は、「健康長寿社会」の実現です。「現在130万人の介護職員を3年間で30万人増やす」「介護施設を集中的に整備する」。さらに地域医療を隣の市町村と協力し、病院・開業医・介護施設が一体となってひとつのサービスを提供する仕組みに転換させることが地域医療の再生、さらに雇用の創出につながります。

松本純は薬剤師として、横浜市議員、衆議院議員の20年間、一貫して「社会保障」を最大のテーマとして取り組んできました。医療・年金・介護・福祉など社会保障制度の揺らぎが国民の皆さまの底知れぬ不安を招いている今こそ、「社会保障の専門家・松本純」が求められていると思います。その経験と知識を発揮する必死の働き時です。

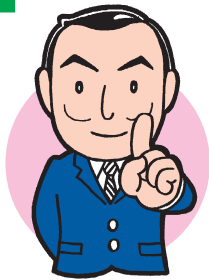
このお盆、久しぶりに家族そろって過ごされたお宅は多かったと思います。家族のきずなと笑顔こそが日本の底力です。その笑顔を消さないために、日本を成長させ、国民の暮らしを守るのは「ばらまき」政策なのか、ニッポンの明日への「投資」を進める政策なのか—を、この大切な8月にじっくりと考えていただきますよう、再度心よりお願いします。

日本の「新たな成長」と「安心の社会」のために

松本純は「3つの政策」の実行を皆さまに約束します

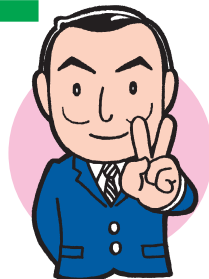
日本は今、経済危機からの脱却に向かって力強く歩き始めています。今後の課題は、それを継続的な、安定的な成長の軌道に乗せることです。そのために必要なのは、目指すべき日本の明日に向けた成長戦略、真に「日本を守る責任力」を備えた政策です。松本純は、「3つの政策」を皆さまにお約束し、その実現に議員生命を賭けます。

1 「経済成長」を図り、活力と安心が両立する社会をつくります



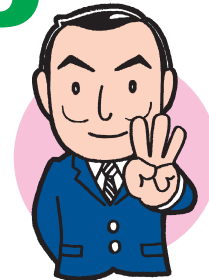
- 大胆な経済対策で、2010年度後半に年2%の経済成長を実現
- 3年間で40～60兆円の需要を創出し200万人の雇用を確保
- 成長戦略の実施で、10年で家庭の手取りを100万円増やす
- 日雇派遣の禁止、正社員化を進めるため「労働派遣法」を改正

2 全世代・全生涯に「安心」をもたらす社会保障制度を確立します



- 3～5歳児の教育費を段階的に減らし、2012年度に無料化
- 「70歳はつらつ現役プラン」をつくり、生涯現役社会を実現
- 老後の生活を支えるため無年金・低年金対策の具体策をつくる
- 今後3年間で介護施設を充実させ、介護報酬のアップを実現

3 公務員制度改革、地方分権で「政治への信頼」を取り戻します



- 天下り・渡りを全面禁止し国家公務員を6年で8万人以上削減
- 衆参両院議員の定数を段階的に減らし10年後に3割以上削減
- 国の出先機関廃止などの「新地方分権一括法案」を成立させる
- 「道州制基本法案」を制定し2017年までに「道州制」を導入

まつもと じゅん プロフィール ●昭和25年4月11日、横浜市中区生まれ ●野毛山幼稚園、本町小、聖光学院中・高、東京薬科大卒、薬剤師 ●本町小PTA会長、横浜JC専務理事、野毛大道芸実行委員長など街づくりや地域活動に取り組む ●平成2年～横浜市議（3期） ●平成8年～衆議院総選挙で初当選。専門を生かし医療・福祉・年金などに全力投球。介護保険制度を創設した責任者の一人 ●平成15年～衆議2期目。総務大臣政務官。 ●平成17年～衆議3期目。総務大臣政務官に再任。三位一体改革、行財政改革など新しい日本の国の形をつくるため奮闘。 ●平成17年11月～議院運営委員会理事、国会対策委員会副委員長として国会運営等に取り組む。 ●平成18年9月～自民党副幹事長（以後、4期連続） ●平成19年6月～自民党横浜市連会長 ●平成20年9月、麻生内閣で官房副長官に任命され現在に至る